

その離職、ちょっと待って！

日本人の二人に一人ががんと診断されると言われている時代。医療の発展や早期発見・早期治療によって生存率が向上したことにより、必ずしも「がん＝死」というものではなくなってきたています。人によっては長期的に治療が必要なこともあり、治療が終わった場合も経過観察などを含めると、がんは長く付き合っていく病気と言えるかもしれません。

厚生労働省は、長期的な治療を必要とする方の仕事と治療の両立を応援するために、平成二八年に「事業場における治療と仕事の両立支援ガイドライン」を設けました。これは患者さんや事業所、医療機関、産業保健総合支援センターなどが連携し、治療を受けながら安心して働ける環境作りをめざすためのものです。

がん相談支援センターでは、厚生労働省が出しているこのガイドラインに基づき、就労のご相談に対応しています。相談員は全員両立支援コーディネーター研修を受講済で、就労支援に関連した資料も各種配架しています。就労に関してご不安な気持ちをお話されるだけでもかまいません。おひとり抱え込まず、どうぞ気軽にお越しください。

参考文献

治療と仕事の両立支援ナビ: <https://chiryoutoshigoto.mhlw.go.jp/index.html>

厚生労働省 治療と仕事の両立について <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000115267.html>

第26号

2021年11月発行

Dr.コラム

少々お時間よろしいですか？

●第1回 「胃癌治療とうまく付き合う」 消化器外科 窪田健先生

私は消化器外科医として二十五年、胃癌を専門にして十三年になります。その間、胃癌治療は目覚ましい発展を遂げ、腹腔鏡やロボット手術が導入され、今や低侵襲手術は当たり前となりました。「私、失敗しないので」の言葉にあるように外科医は手術技術に目が行きがちですが、それは当然です。手術を安全確実に行うのは外科医の最低限の義務です。

ただ、患者さんにとって手術は治療過程の一部に過ぎず、胃切除後はさまざまな後遺症に悩まされます。今まではがんを切除したのだからそれくらいあたりまえと考えられていたことを、最近は外科医にもっとできることはないか、と考えるようになってきました。例えば、できるだけ機能を温存するような手術を選択する、手術後はさまざまな症状に対する食事療法や薬物療法を提案する、などです。私自身は、手術後もぜひ仕事や趣味を取り戻してほしいと考えています。実際、仕事に戻られている患者さんとは、体調や生活リズム、戻るタイミングなどをよく相談しました。また趣味などについて相談を受けることもあり、胃切除後一年でハーフマラソンを完走された方もいらっしゃいました。

当院にはがん相談支援センターという部署があります。そこではがん治療に対する不安や問題などを相談することができ、手術後や抗がん剤治療をしながらの仕事復帰などのお手伝いをしています。ぜひ、そういった部署を活用して少しでも日常生活を取り戻していただきたいと思います。



料理長として復帰された患者さん



右:完走された患者さん
左:私(筆者)

※ご本人の許可を得てお写真の掲載をしています

がんに関する疑問や不安、悩みに対しがん専門相談員が皆様のお話を伺い、一緒に考え、問題を解決するお手伝いをしています。

電話でも直接お越しいただいても構いません。

【相談時間】：平日（祝日除く）9：00～12：00
13：00～16：00

【場所】：外来診療棟1階 ②地域医療連携室内

【電話番号】：075-251-5283・5284（直通）

